

下男が、非常に不従順なることは社會上の驚くべき現象です、別して工場などに於ける職工の不従順は非常なもので、日本には主人が工場に來ると、濟まないといふので職工は鉢巻をとるのですがあちらでは主人の方から職工どもの機嫌を伺つて帽子を脱ぐといふ有様である、かくの如き儲者被儲者間の惡關係は、要するに個人主義の結果であります。

まづ以上は個人主義に伴へる社會上の主なる弊害であります、我が國は個人主義の諸外國と交通が盛んなので、かような主義が大層蔓延して來るやうですから、將來の教育方針を定むるには最も深き研究を要すること、思ひます。

## 兒童の恐怖心

樂 天 子

恐怖といふことは兒童には早くから現れる、所の感情であつて、始めは兒童の自然に持つて居ると、この性質によりて何か恐れるやうです。夫から段々と種々の經驗を積むに従ひ、自分の智力に訴へたる恐怖を生ずるやうになります、試みに恐怖の起る原因を區別して説明して見ませう。

第一の原因とも見るべきものは遺傳であります、例へば他の動物

でいふて見ると、鶏の雛が、まだ鷹を見たことがないのに、始めてこれを見て恐怖するやうな類は、遺傳によるといふより外はありません、小兒に就て見ても別段の理由もないのに暗黒の外を恐れたり、又は馬を見て恐れたりするのがある、どうも之が何のためであるか分らぬことがあるのは、其の原因が遺傳にあるといふより外はありません、即ち一個人の生活の中の經驗からは説明が出来ない由であつて、何か人類が現今の發達をなすまでの間に恐怖するやうな理由があつて、其の性質が生れながらに備はつたものと考へるよりほかはありませぬ。

第二の原因は兒童の無知識なることです、例へば海岸に立つて波の寄るのを見るときに、實際波が自分の所まで來ないことは明白であるのにこれを恐怖しますのは、畢竟兒童が無知識であつて考へが足りないから餘計の心配をするのでせう、其の他にも大人から見ればつまらないことで、少しも恐るゝに足りないことまでも恐るゝのは決して少なくはないのです。

第三の原因は身體が虚弱であるといふことです、一體に身體が弱いものは、何かの刺戟を受けたときに、非常に感じ方の強いものであります、夫がために恐怖を起すことも亦甚だしいのであります、つまり身體の虚弱のために、神経が過敏に傾いて居るのであります、之も亦我々の注意を要することであると思はれます。

第四の原因は兒童の經驗であります、例へば今兒童が燈光に手を觸れました爲めに、手を火傷したといふ經驗がありますと、其の後は燈光に近づくことを恐れるやうになります、これは實に自然の勢であります、この類のものは、即ち經驗のために生じたる恐怖であつて、つまり理窟になつて居るものであると思はなければなりません、大人にても之と同様なことがあります、君子が危きに近よらないのは、經驗上危いことを認めたからで、兒童が一度經驗上危いことを認めた場合に之に近寄ることを恐れるのはこの部類に屬します。